

荒建材建設 株式会社

令和5年度環境経営レポート

対象期間：令和5年4月～令和6年3月



令和6年6月1日発行

目 次

I、環境経営方針

II、事業活動の概要

III、実施体制

IV、環境経営目標とその実績

V、主要な環境経営計画の内容、取組結果
の評価、次年度の目標及び取組内容

VI、環境関連法規等の遵守状況の確認、違
反、訴訟等の有無

VII、代表者による全体評価と見直しの結果

荒建材建設株式会社環境経営方針

〈経営理念〉

当社は、社会インフラとしての土木工事，生活を豊かにする建築物の提供を通じ，社会に貢献することを目指して来ました。

〈環境理念〉

当社は、近年、ますます深刻化する地球温暖化など環境問題への対応が重要課題であるとの認識に立ち、事業活動における環境負荷の低減を図るため全社一丸となり積極的に環境保全活動に取り組みます。

〈環境保全への行動指針〉

1 二酸化炭素の排出削減の推進

①燃料等の消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。

2 廃棄物削減の推進

①一般廃棄物については、削減と分別に努めます

②建設廃棄物の再資源化の推進に努めます。

3 水使用量の削減

①建設現場における適正な水利用に努めます。

4 化学物質使用量の削減に努めます

5 環境関連法規制等の遵守します

6 ICTを活用し建設工事の効率化の推進に努めます

7 社員が生き生きと働ける職場環境 整備に努めます

8 環境経営システムの継続的改善に努めます

9 地域 とのコミュニケーション推進に努めます

制定日：平成22年5月31日

改定日：令和5年4月 1 日 継続

荒建材建設株式会社

代表取締役

荒屋敷拓人

Ⅱ、事業活動の概要

1.事業所及び代表者

荒建材建設 株式会社

代表取締役 荒屋敷 拓人

2.所在地

本社 〒039-1107青森県八戸市大字櫛引字直渡13番地

TEL 0178-23-5505 FAX 0178-23-5515

砂利採取場 〒039-1107 青森県八戸市大字櫛引字矢崎沢31番地

3.環境保全関係責任者

環境管理責任者 荒屋敷 拓人

4.事業活動の内容

青森県知事許可（特-2）第 16963 号

・土木工事業 ・とび土工工事業 ・舗装工事業 ・砂利採取業

産業廃棄物収集運搬業許可 許可番号0200073072

汚泥、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

（これらのうち、自動車等破砕物及び特定管理産業廃棄物であるものを除く。）

（産業廃棄物収集運搬業については、自社廃棄物のみで営業実績はありません）

5.事業規模

創 業： 平成5年12月13日

資 本 金： 20,000,000円

売 上 高：200000千円（令和5年度）

従業員数： 9名

6 認証・登録の対象範囲

荒建材建設(株)の全組織、全活動とする。

7. レポートの対象期間

令和5年4月～令和6年3月

Ⅲ 荒建材建設株式会社 EA21実施体制図

(1)事業者名及び代表者名

荒建材建設株式会社 代表取締役 荒屋敷 拓人

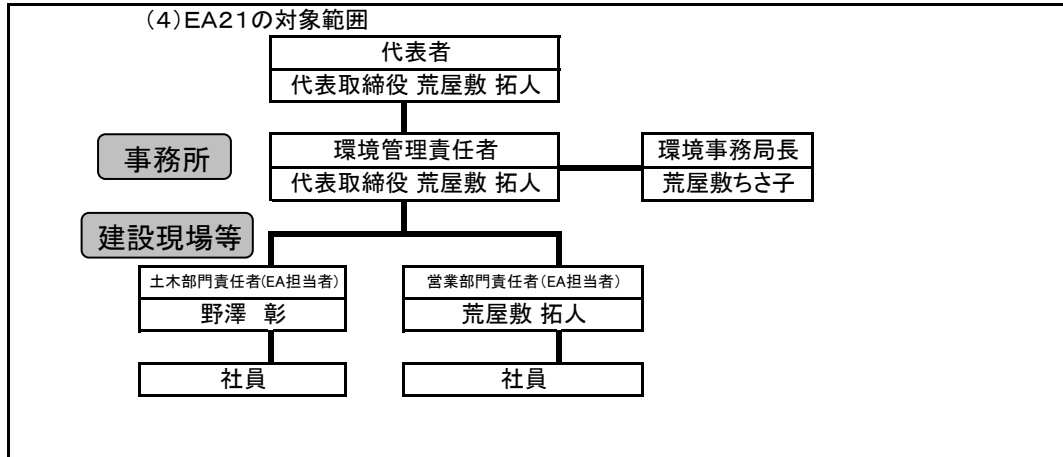
(2)所在地

本社 青森県八戸市大字櫛引字直渡13番地
砂利採取場 青森県八戸市大字櫛引字矢崎沢31番地

(3)事業内容

・建設業 ・砂利採取業

(4)EA21の対象範囲



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長) 荒屋敷 拓人	・取組に対する経営資源を用意する。 ・実施体制の構築 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 荒屋敷 拓人	・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告。 ・社員教育を実施し、環境方針の周知を図る。 ・関連文書の記録・管理を行う。
環境事務局 荒屋敷 ちさ子	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
部門責任者 荒屋敷 拓人 野澤 彰	・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 ・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施。 ・従業員に対する教育訓練の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、目標達成に向けて活動する。

Ⅳ、環境経営目標とその実績

(1) これまでの排出量の実績

燃料使用量が最も大きな環境負荷となっています。
10月から来年3月の年度末にかけての工事の使用率が多いので一つ一つの現場で削減をする。

表1、主な環境負荷等の実績

項 目	単位	令和4年度	令和3年度	令和2年度
購入電力の使用量	kwh	7,074	7,324	7,483
灯油の使用量	L	1,597	1,574	2,974
ガソリンの使用量	L	15,712	15,843	14,731
軽油の使用量	L	34,723	53,353	41,740
二酸化炭素削減	kg－CO ₂	135,327	184,600	155,120
一般廃棄物排出量	kg	249	248	248
産業廃棄物の最終処分量	kg	1,850	10,547	191
建設リサイクル(再資源化率)	%	99	99	99
水使用量	m ³	480	480	480
化学物質の使用量	kg	0	0	0

購入電力の排出係数は、令和元年度実績 R2.1.7環境省・経済産業省公表 東北電力㈱の調整後排出係数0.528を使用した

(2)環境経営目標の設定

当社においては、環境経営目標については、令和2年度から令和4年度の長期及び単年度の目標を設定し環境活動に取組んでおります(表2)。

表2 環境経営目標の設定

項目		削減率又は増加率(%)	基準年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
			基準値	基準値に対する削減率(増加)率)			
				目標値			
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4	
		kwh	9,642	9449	9353	9256	
	灯油使用量の削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4	
		L	942	923	914	904	
	LPG使用量の削減	削減率(%)	令和元年度				
		kg	0	0	0	0	
	ガソリン使用量の削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4	
		L	20,718	20,304	20,096	19,889	
	軽油使用量の削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4	
		L	31,205	30,581	30,269	29,957	
二酸化炭素排出量の削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4		
	kgCO ₂	136,011	133,291	131,931	130,571		
廃棄物排出量の削減	ごみの削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4	
		kg	205	201	199	197	
	建設リサイクル率の推進	再資源化率	令和元年度				
		(%)	89	90	90	90	
水使用量の削減	水道水使用量の削減	削減率(%)	令和元年度	2	3	4	
		m ²	600	588	582	576	
化学物質使用量の削減	化学物質の管理の推進	削減率(%)	令和元年度	行動目標 ・化学物質を適正に管理し、定期的に確認する。			
		kg	0				
自らが施工・販売・提供する製品、設備、土木建築物等の環境性能の向上及びサービスの改善	環境に配慮した施工の推進	—	—	行動目標 ・再生資材等の環境配慮製品の情報収集や環境に配慮した施工・工法の推進に努める。			
		—	—				
地域貢献	ボランティア活動等	増加率(%)	令和元年度	—	—	—	
		件数	8	8	8	8	

購入電力の排出係数は、令和元年度実績 R2.1.7環境省・経済産業省公表 東北電力㈱の調整後排出係数0.528を使用しました。

(3) 当該年度の環境負荷の実績と評価

令和5年度の環境負荷量及び環境目標の達成状況等の評価を行った。
 電力購入については、こまめに電源を落とし節電を行う。
 灯油の使用量については、ウォームビズを実施する。
 軽油の資料量については、省エネ運転、アイドリングストップを実施する。
 一般廃棄物排出量については、事務所内でのペーパレス化を推奨する。

表3、環境負荷等の実績及び環境経営目標（令和4年度）

項 目	単位	令和5年度		評 価
		目標値	実績値	
購入電力の使用量	kwh	9449	9,699	×
灯油の使用量	L	923	1,330	×
ガソリンの使用量	L	20304	16,514	○
軽油の使用量	L	30581	32,713	×
二酸化炭素削減	kg-CO ₂	133326	131,695	○
一般廃棄物排出量	kg	201	248	×
建設リサイクル(再資源化率)	%	90	95	○
水使用量	m ³	588	480	○
地域貢献	件数	8	8	○

○:目標達成、×:目標未達成

環境活動状況

現場KY活動



地域貢献



V、主要な環境経営計画の内容、取組み結果の評価及び次年度の目標及び取組内容

指標	環 境 目 標	活 動 内 容	取組み結果	次年度の目標	次年度の取組内容
エネルギーの削減	電力使用量の削減	・未使用の部屋の電気をこまめに消す ・OA機器の電源をこまめに消す	OA機器の電源オフはよく守られていた	項目：二酸化炭素排出量 基準値：136011 削減率：3% 目標値：131931	・こまめな消灯など電力使用量削減について、職員に対する意識付けをこれからも継続する。 ・省燃費運転の取組を更に強化する。 ・その他の取組は、前年度の取組み内容を継続し、より削減に努める。
	車両用の燃料使用量の削減	・各車両燃費のチェック ・エコドライブの実施	アイドリングストップはできていた。		
	暖房用の燃料使用量の削減	・クールビス、ウォームビスの実施	よく守られていた。		
二酸化炭素排出量の削減		・建設車両、建設重機のアイドリングストップの実施	アイドリングストップはよく守られていた。		
廃棄物の削減	ごみの排出抑制、分別・リサイクル	・両面コピー、プリントの推奨 ・分別の徹底	両面コピーはよく守られていた。	項目：ごみの削減 基準値：205 削減率：3% 目標値：199	・分別はこれからより徹底する。 ・その他の取組は、前年度の取組み内容を継続し、より削減に努める。
	建設リサイクル（再資源化率）	・発生する建設副産物の再利用率向上のために工夫している ・廃棄物を混合廃棄物としないよう徹底している ・廃棄物混合廃棄物を分解等して分別し、リユース、リサイクルしている	よく守られていた。	項目：リサイクル率 基準値：89% 目標値：90%	
水使用量の削減	使用水の削減	・現場等で使用する散水用の水は、可能な限り排水路や雨水等を利用。 ・砂利採取場では、調整池を設け雨水利用を行っている。 ・砂利採取等で使用する散水用の水は、雨水を利用。	よく守られていた。	項目：使用量の削減 基準値：600 削減率：3% 目標値：582	・前年度の取組み内容を継続し、より削減に努める。
	排水処理	・砂利採取場では、調整池を設置し土砂の流出を防止している。	よく守られていた。		
化学物質の管理推進		・建設現場等で使用する有害性の化学物質は、流出防止対策を徹底している	本年度化学物質を利用した現場はなかった。	行動目標・化学物質を適正に管理し、定期的に確認する。	・化学物質を利用する場合は、取組を実施する。
環境配慮型施工等の推進		・再生資材等の環境配慮製品の情報収集を行った。 ・低振動、低騒音、低排出ガスの建設機械を使用している。	よく守られていた。	行動目標・再生資材等の環境配慮製品の情報収集や環境に配慮した施工・工法の推進に努める。	・前年度の取組み内容を継続し、より削減に努める。
地域貢献		・現場周辺のゴミ拾い。 ・植生作業。	達成はできていない。	項目：地域貢献件数 基準値：8 目標値：8	取組を強化する。

Ⅵ、環境関連法規等の遵守状況の確認、違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける建設リサイクル法、廃棄物処理法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題がありませんでした。

Ⅶ、代表者による全体評価と見直しの結果

今回、燃料使用量のうち軽油、灯油使用量が非常に多かった。工事量によって二酸化炭素排出量は大きく左右されてしまう。特に、年度末にむけて土工事や除雪が始まるため、一層、省エネ運転に配慮していくことが必要。このため、燃料使用量削減のための努力を続けていく。

建設リサイクル率、など含めた新たな環境目標(2022～2024年度)を設定し、この目標達成に向けて、環境負荷削減の努力と教育活動を続けていく。